

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
保幼小中連携 中学校ブロック	実践的教育活動を校区内で統一する。	①同授業研等で、連携カリキュラムを有効に活用する。②つながり力の育成に向けて、それぞれ(各校園所、各学年)が授業で何を大事にするべきかを明確に持つ。	①連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ②各校、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業に取り組み、それぞれの実践を各校が交流・取り入れる。	①連携カリキュラムに必要な項目について検討し、追加作成を行う。 ②校区全体で子どもが主体的・対話的に学んでいる授業を実践する。
確かな学力の育成	活用する力をつける	①国語の基礎学力向上(読みの力向上)音読の重視→100点読みへの挑戦→暗唱での成功体験のステップで自信アップにつなげ「できる」を実感させる。 ②算数の基礎学力向上(計算の各学年重点指導事項の習得)・5づくり・10づくり・繰り上がり・繰り下がり・わり算C型100問練習・割り算の筆算の習熟・高学年は4年生までの重点指導事項の習熟とスピード化をはかる。また、面積(シエーマ)図の指導も行い、文章問題において機械的にでも立式ができるように指導。 ③学習能力の向上(聴く力の向上)人の話を聴く力の向上。話す人(教師、発表者)の目を見て聴く態度の育成。	①国語の基礎学力向上(読み書きの力向上)・漢字そっくりさん指導・視写指導・音読(暗唱)・指導・読書指導・辞書引き活動・字形指導の徹底(とめ、はね、はらい・見て書く技術の向上(ビジョントレーニング)等の指導 ②算数の基礎力の向上(計算)・計算カードの長期的活用・フラッシュカードの活用・フラッシュ暗算・くり下がり引き算の徹底反復・マス計算・わり算C型100問練習・面積図指導 ③学習能力(学ぶ力)の向上 テストの受け方指導、テスト勉強の仕方指導・反応速度を高める指導・上達力を身につける指導・よく見てよく聴き よく学ぶ(まねぶ)子どもの育成・(家庭学習)の仕方指導	①国語の基礎学力向上(読み書きの力向上)・漢字学年全字読み書き習得指導・読書指導・辞書引き活動 <b>活用</b> 資料を見比べて、自分の考えを条件に合わせて書けるよう授業で取り入れる。 ②算数の基礎力の向上(計算) ・計算カード・ブロックの長期的活用・ばら九九1秒練習・フラッシュ暗算・くり下がり引き算の徹底反復・マス計算・わり算C型 100問練習(10分以内) <b>活用</b> 算数用語を用いて考え方を説明できる力、書ける力がつけられるよう授業で取り入れる。学習のまとめを自分で書かせて評価する。 ③“だれも見捨てない”を合言葉にペアやグループで支え合えあう関係を築きながら全体での学力向上を図る。
豊かな人間性を育む	がりを大切に 何事にも一生懸命取り組みつな	・学校全体であいさつ運動に取り組む。最高学年や児童会が中心となって取り組み、あいさつの大切さを理解する。 ・異学年交流として、交歓給食や勉強会などを行う。	・あいさつ運動への取り組み。あいさつの大切さを継続して理解する。 ・異学年交流や、学校全体で交流できる取り組みを行い、いじめをなくすことへつなげていく。	・あいさつ運動を継続するだけでなく、あいさつを習慣づける新しい取り組みを行う。 ・学校全体で取り組むことのできる取り組みを増やし、高学年は低学年との触れ合いの中で学校の代表としての自覚を持たせる。
健康・体力の増進	運動好きの子を増やす。 運動嫌いな子減らし、	・体育授業の充実・校内研修会の実施(水泳、茨木っ子運動等)・「子どもは風の子プロジェクト」の実施…マラソン、縄跳び・茨木っ子運動の実施の徹底・校内体力向上プロジェクトの実施・備品等の把握及び必要な備品の調査などの環境整備・耳原小学校体育年間計画の周知・短時間運動プログラムの研修	・体育授業の充実・校内研修会の実施(水泳、茨木っ子運動等)・「子どもは風の子プロジェクト」の実施…マラソン、縄跳び・校内体力向上プロジェクトの実施・備品等の把握及び必要な備品の調査などの環境整備・短時間運動プログラムの実施・全職員における体育指導の共通理解の促進(伝達講習)	・体育授業の充実・校内研修会の実施(水泳、茨木っ子運動等)・「子どもは風の子プロジェクト」の実施…マラソン、縄跳び ・耳原小学校体育年間計画に沿った体育指導による体力の向上 ・短時間運動プログラムの実施による体力の向上 ・グローイングアップ計画の振り返り
支援教育の充実				

## 2

## 今年度の結果と取組みについて

## (1) 全国学力・学習状況調査

## ○●国語●○

## (領域ごと)

- |            |               |
|------------|---------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった   |
| ②書くこと      | 概ね良好な結果であった   |
| ③読むこと      | 概ね良好な結果であった   |
| ④言語事項      | やや課題が残る結果であった |

## (問題形式)

- |      |               |
|------|---------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった   |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった   |

## (無解答率)

概ね良好な結果であった

## (その他)

正答率の高かった設問・・・1の二・2の一(2)・3の二

\*条件に合わせて読みとり、選択する力が高い

正答率の低かった設問・・・1の三・1の四(1)イ・3の三

\*漢字を正しく使えておらず、同音異義語も丁寧に授業で取り組む。また、2つの条件をもとに自己の考えを記述することが難しく、条件の見落としや1つだけの条件をクリアしている誤答が多かった。資料を読み取る経験を積ませたい。

## 分析

大阪府の平均正答率をこえ、全国平均正答率にも僅差で近づいてきた。

本校の児童は読書が好きと答える児童が約80%にも及ぶ。これは、朝の読書や音読指導、また、すぐに本が読める環境を用意した成果だといえる。また、正答率からも“目的に合わせて文章の概要を読む力”は全国平均よりも高い。

しかし、児童のアンケートからも「国語のテスト時間がたりなかった。」と答えた児童が多く、初めて目にする文章は読みにくい傾向もみえてきた。

読む力が高まってきたので、これに“書く力”もつけていきたい。とりわけ、課題が見えたのは、漢字の定着である。既習の漢字もひらがなで書く児童も多く、漢字を“使える”まで深めていきたい。

最後に、筆者の意図をくみ取り“条件に合わせて自分の考えを書く力”を高めるために、例えば、新聞を作成し文章を推敲し、作文を書く時も指定の文字数の中で書き上げるよう授業改善をしていく。

## ○●算数●○

### (領域ごと)

- |       |             |
|-------|-------------|
| ①数と計算 | 良好な結果であった   |
| ②量と測定 | 概ね良好な結果であった |
| ③図形   | 概ね良好な結果であった |
| ④数量関係 | 概ね良好な結果であった |

### (問題形式)

- |      |             |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった   |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

### (その他)

正答率の高かった設問・・・1(1)・2(1)(2)・(4)・3(1)(2)(3)・4(2)(3)

正答率の低かった設問・・・1(3)・2(3)・3(4)

### 分析

全国平均正答率をこえ、児童に算数でつけたい力がついてきた。また、無解答率も1%と非常に低い。アンケートからも「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」が90%に及び、「新しい問題に出合った時、それを解いてみたい」と回答する児童が、約86%もいる。これは、授業の中で教科書だけにとどまらず、高い課題に出合うこと、また、解き方を分からない友達が分かるように説明する時間を設け、分からないことをペアやグループで共有してきた成果だと考える。

これまで積み重ねてきた“基礎的な問題”について、一定の定着は図れたが、公式やきまりを使って基本的な計算もできるが、「そのわけを理解するようにしているか」までは至っていない。これからはそれに付け加え活用する力を育む(高い課題に挑戦する力)授業展開を目指す。

最後に、「量と測定」の分野に課題がみられた。これは、考え方を条件に合わせて記述する問題だ。条件が1つだけなら解答率も上がるが、2つの条件をあてはめながら算数用語を用いて記述することが難しかったようだ。

## ●●経年比較●●

### 全体的な傾向についての分析

算数は全国平均を上回り、学習の定着がみられた。また「算数が好きか」「全ての書く問題で最後まで解答を解こうと努力した」の質問項目において全国平均を大きく上回っており、本校で進めている『学習したことをいかしていく問題(高い課題)』の成果がみられたことが分かった。

国語科は全国平均に迫っており、確実に力がついてきている。「読書は好きか」の質問項目において全国平均を大きく上回るように、『読む』領域に成果がでていた。反面、条件つきでの記述にやや課題がのこった。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

昨年度に比べ、国語も算数も正答率40%以下の学力低位層が大幅に減少した。反対に、正答率80%以上の学力高位層が増加し、好ましい結果に近づいてきている。低位層の減少は、中位層へ引き上げられた結果である。昨年度懸念されていた学力の二極化は少し解消されてきた。

## ●●取組み●●

### 学力向上に関する取組み

平成31年度 **研究主題**

### 思考力の育成

#### ～子どもたちが自ら思考を使いたくなるような授業づくり～

授業づくり・・・知識と活用を一体化した授業を展開することが子どもたちの生きる力を育むことにつながる。活用問題を解くには、子どもたちもパワーが必要になる。高い壁こそ一人では乗り越えられない。解きたくても、どう知識を使えばいいのか分からなかったり、問題も意味が読み取れなかったり・・・と、そこでくじけてしまう。だからこそ、一人で乗り越えられない問題に出合わせ“ペアやグループでつながれるきっかけ”を作り、共同学習で学力の定着と底上げを図る。さらには、人権部と連携し丁寧な集団づくりをしながら、一人ひとりの学びを保障し、「教えて。」「いいよ。」という風に“ききあえるペア・グループの関係”を育てたい。

漢字指導・・・同音異義語や音読み、訓読みも丁寧に学習させるために、文を書く時には国語に限らず既習漢字を使うように指導する。学期末の漢字まとめテストは合格点を設定し、全員クリアできるように自主学習を計画的に取り組みせたい。

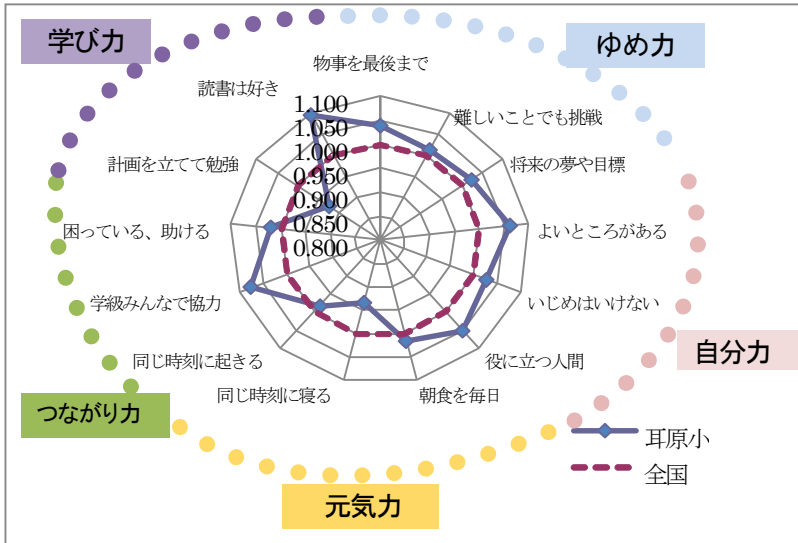
家庭学習・・・生活アップ月間として年2回(9月、1月)家庭学習を重点的に取り組む期間として、家庭や子どもたちに意識を促す。「宿題は丁寧に家でする」を少しずつでも定着させたい。

読書活動・・・朝読は、教師も一緒に読書をして読む環境をつくる。図書館支援員とともに、より図書館利用が広まり、本を好きになる子どもたちが増えるように教室や図書室の環境を整える。保護者の読み聞かせなどにも今まで同様取り組んでいく

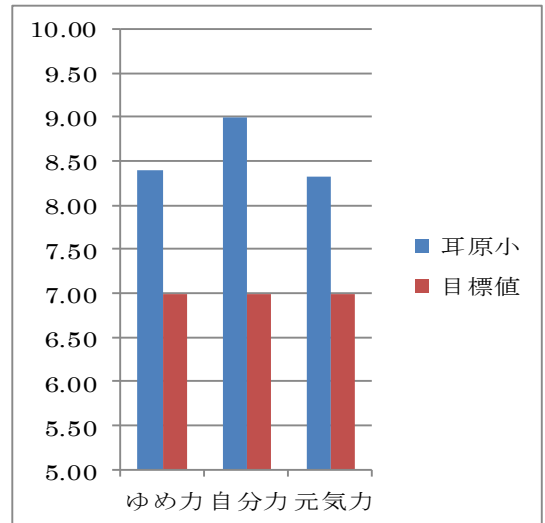
耳原スタンダード・・・学校生活や授業に関して、共通して理解しておくことを視覚化し整えていく。  
また、北中校区での共通取り組みもすすめる。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は13項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

### ゆめ力

・3項目とも全国より数値が上回っている。特にここ数年、5・6年生でつながりを持った「キャリア教育」に重点的に取り組んでいる。その取り組みが結果に影響していると思われる。

### 自分力

・3項目とも全国より数値が上回っている。とりわけ「よいところがある。」の項目が全国平均よりも大きく上回っている。日ごろから友達同士認め合う取り組みを行ったり、教師がプラスの声掛けをしたりしていることが影響していると思われる。

### 元気力

・「起床時間」「就寝時間」の2項目が全国より数値が下回っている。家庭と連携しながら基本的な生活習慣の定着を図っていく必要がある。

### つながり力

・2項目とも全国より数値が上回っている。普段から友達や仲間を大切にしている学級づくり、学年での取り組みが結果に影響していると思われる。様々な学校行事を通して仲間との結びつきが深まっているということも要因の一つであると思われる。

### 学び力

・「読書」の項目が上回っている。朝の読書活動をはじめ、図書ボランティアによるお話会や読み聞かせなどの取り組みが、読書を好きな児童を育てていることにつながっていると考えられる。「計画を立てる」項目は全国を下回っているため、見通しを持った学習の仕方や、計画性を育む取り組みが必要である。

### 目標値との比較

・いずれの項目も、目標値を大きく上回っている。これまでの学校の取り組みが一定の成果を表しているものと考えられる。今後もより高い成果をあげられるよう、学校全体で取り組みを進める。

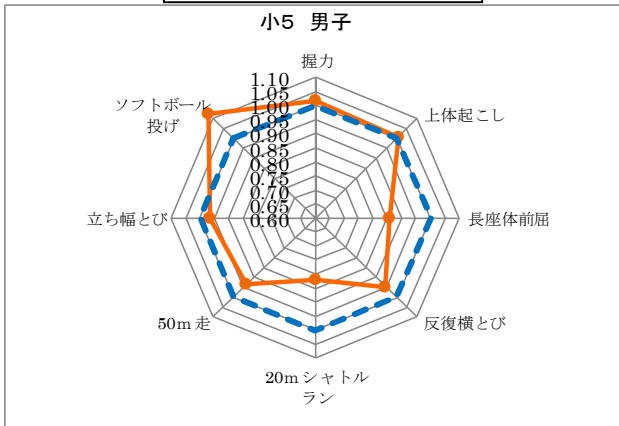
## 取組み

- ・自尊感情の醸成(文化発表会・校内作品展等・きょうだい学年交流・もちあじの取り組み)
- ・基本的な生活習慣の向上(生活アップ推進週間・登校支援)
- ・学習規律(学習ルールの徹底・耳原スタンダード)
- ・児童会活動(募金活動・応援団・委員会活動・いじめ防止プロジェクト)責任と行動力の育成
- ・集団づくりの取り組み
- ・あいさつ運動(あいさつ推進キャンペーン)
- ・キャリア教育の充実
- ・学校行事(運動会・文化発表会など)
- ・読書活動(朝読書、図書ボランティアのお話会、読み聞かせ、図書委員会の活動)

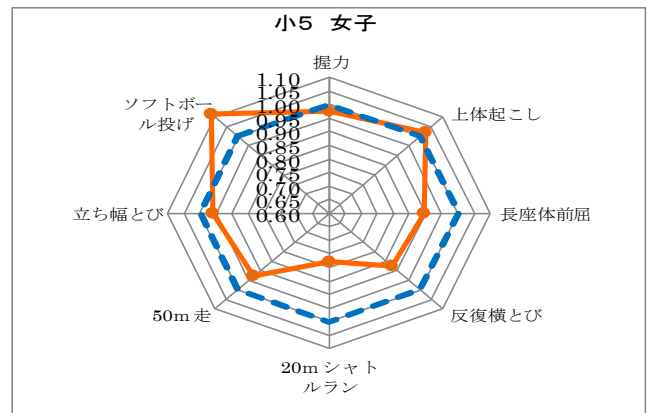
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

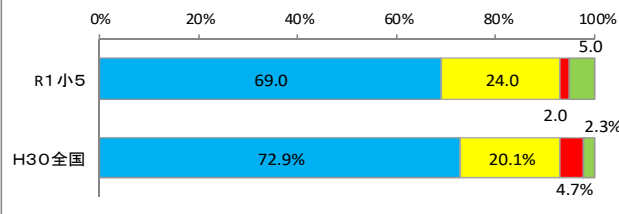
男子 (小5)



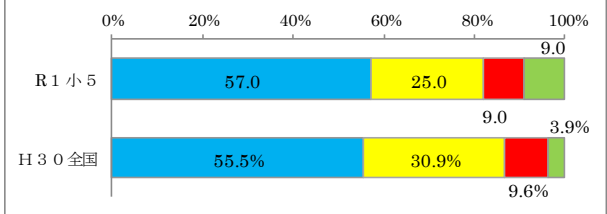
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

### 分析

#### <5年生>

- 男子のソフトボール投げ、握力、上体起こしの項目が全国平均を上回っている。
- 男女ともにソフトボール投げが全国平均を大きく上回っている。体育委員会によるドッジボールコートの線引きなどの影響で外でボールを投げる運動をしている児童が多いからだと考えられる。
- 男女ともに50m走は大きく全国平均を下回っている。走り方などの指導をもう1度確認する必要がある。
- 女子多くの項目で全国平均を下回っている状況であり何らかの対策が必要である。
- 運動が好きという項目が男女ともに前年度より上昇しており、男子は全国平均を上回っている。

#### <学校>

- 全体的に全国平均を下回る結果となった。特に4年男子は全ての項目で下回っている。
  - 握力の項目は全国平均とほぼ同等か上回る結果となり、測定方法や環境を整えたことが大きな要因だと考える。
  - 女子のソフトボール投げでは、4、5、6年が全国平均を上回っており概ね良好な結果となった。  
→ドッジボールをしている児童が多い。
  - 柔軟や瞬発力の運動に大きく課題が残る結果となった。短時間運動プログラムを実施し、柔軟性、瞬発力の向上を図る。  
→ソフトボール投げについては昨年度に引き続き概ね良好な結果となった。体育委員会によるドッジボールコートの線引きなどにより、児童に投げる運動を日常から促進していきたい。
- 全体的に昨年度を下回る結果となったことから、短時間運動プログラムの実施により改善を図っていく。

### 取組み

- 体育授業の充実
- 校内研修の実施 (体育)
- 「子どもは風の子プロジェクト」の実施・・・休み時間に外で遊ぶ児童を増やす。
- 短時間運動プログラム
- 茨木っ子運動の継続 (柔軟性 瞬発力を高める運動)
- 泳力の向上
- 水泳指導力の向上 (校内研修)